

ドラッカーとは何者か
——観察者の誕生

20015 年 10 月 24 日 井坂康志

1 観察者の眼はいかに育まれたか

1 ドラッカーは何を見ようとしたか

- ・ドラッカーとは何者か
- ・領域横断的アプローチ
- ・「明治人」の気概
- ・ゼロ体験

2 社会生態学者への道

- ・物見の役の仕事
- ・見る責任、物語る責任
- ・コンサルタントとして
- ・小さく生き生きした世界
- ・バスカヴィルの知性——欠落への感性

3 自らを知る

- ・社会生態学者
- ・ジャーナリストの仕事
- ・言語の神聖さ
- ・幼少年期ウィーンの人々
- ・『ファルスタッフ』の教え
- ・日本との出会い
- ・日本画——情報の精髓

2 修行と実験——ウィーン・ハンブルグ・フランクフルト時代

1 ウィーンの幼少時代

- ・父アドルフ、母キャロライン
- ・シュヴァルツヴァルト小学校
- ・エルザ先生
- ・退屈なギムナジウム
- ・シュナーベルの個人レッスン

2 ユートピアからの脱出

- ・「昨日の世界」
- ・ハンブルグ——社会人としての第一歩
- ・人生を変えた名著——テニエスとバーク
- ・『フランクフルター・ゲネラル・アンツァイガー』
- ・働きながら学ぶ
- ・博士号を取得
- ・処女作を出版

3 産業社会への眼——ニューヨーク時代

1 イギリスでの結婚

- ・「シュタール論」
- ・ドリスとの結婚、日本画との出会い
- ・新世界への脱出

2 文明の新境地・アメリカ

- ・新天地の青空
- ・教育——思考の実験室
- ・『「経済人」の終わり』
- ・『産業人の未来』

3 GM の観察

- ・30 歳をすぎて
- ・企業現場に分け入る
- ・GM の調査
- ・『企業とは何か』
- ・産業社会は成立するか
- ・GM 幹部の不興
- ・時代を代表する知識人に